

2 環境学習

県民一人ひとりが環境に関する諸問題を正しく理解し、環境に負荷をかけないライフスタイルを実現・実行することこそが環境保全にとって最も重要である。当センターでは、環境保全の実践に結びつけるため、各種講座の開催など環境学習の機会の提供を行っている。令和4年度の環境学習の取組については、以下のとおりである。

2.1 彩の国環境大学

当センターでは、平成9年度から環境科学に関する知識を持った専門的な人材を育成するため、彩の国環境大学を開講している。令和4年度も、環境に関する広範囲かつ専門的な知識の習得を目的として基礎課程、実践課程を開講した。

開講期間:8月27日～11月23日 基礎課程・実践課程 各10回 受講者:44名 修了者:33名

開講式公開講座

開催日	講義名	講師名
8月27日	海のない県で地球環境と海のつながりを考える	埼玉県環境科学国際センター 総長 植松光夫

閉講式公開講座

開催日	講義名	講師名
11月23日	CESS7つの謎	(公財)埼玉県産業文化センター 専務理事(兼)業務執行理事 松山謙一 (埼玉県環境科学国際センター 前センター長)



開講式



閉講式公開講座

基礎課程

開催日	講義名	講師名
9月 3日	埼玉県の環境の現状と今後の目指す姿 ー環境保全・創造の取組ー	埼玉県環境部環境政策課 主任 西原悠
9月 3日	水環境 川の国埼玉と里川の再生 ー地域の川と生きものたちを未来へつなぐー	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 木持謙
9月10日	気候変動が埼玉県に与える影響について	埼玉県環境科学国際センター 主任 本城慶多
9月10日	埼玉県内における異常水質事故の状況と対策	埼玉県環境科学国際センター 専門研究員 柿本貴志

開催日	講義名	講師名
9月17日	埼玉の大気環境を知る ー光化学スモッグとPM2.5のいまー	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 佐坂公規
9月17日	生物多様性を考える ー今、埼玉県では何が起きているのか？ー	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 米倉哲志
9月24日	化学物質と私たちの暮らし ー健康で環境にやさしい生活をおくるためにー	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 大塚宜寿
9月24日	私たちの暮らしと廃棄物 ーごみ処理の変遷と法整備ー	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 長森正尚
10月1日	地球温暖化問題から考える私たちの生活と経済	大月市立大月短期大学 准教授 佐藤克春
10月1日	地球環境問題と国際協力	日本大学国際関係学部 教授 鈴木和信


実践課程

開催日	講義名	講師名
10月8日	環境学習プログラムをデザインする 環境学習プログラムをデザインする(演習)	学びの広場 代表 小川達己
10月15日	環境学習から環境まちづくりへ 学びと参加をつなげひろげるコーディネーターの役割	NPO法人 エコ・コミュニケーションセンター 代表 森良
10月22日	事例研究 危機感が生んだ都市住民を取り込む活動手法について	NPO法人 宮代水と緑のネットワーク 代表理事 茂木俊二
10月22日	2030SDGsカードゲーム体験	Synapse((同)シナプス) 代表 竹元紳一郎
10月29日	生物多様性とは何か 自然のしくみを知る(実地演習)	埼玉県自然学習センター 自然学習指導員チーフ 高野徹
11月5日	SDGsと企業経営を考える 環境リテラシーを考える	認定NPO法人環境ネットワーク埼玉 代表理事 星野弘志

2.2 公開講座

彩の国環境大学修了者フォローアップ講座をはじめ、センター施設を活用した生態園体験教室、県民実験教室を開催した。

講座名	開催日	テーマ等	参加者
① 彩の国環境大学修了者フォローアップ講座 環境保全活動や環境学習活動を行う彩の国環境大学修了者を支援するため開催している。	令和5年 2月4日	講演 「埼玉県における気候変動の実態と2つの対策」 埼玉県環境科学国際センター 研究企画室 室長 嶋田知英 「ごみのはなし」 埼玉県環境科学国際センター 資源循環・廃棄物担当 担当部長 川寄幹生	53名

講座名	開催日	テーマ等	参加者
<p>② 生態園体験教室</p> <p>生態園における観察会や野外活動を通して身近な環境のしくみの理解や自然と生活との共生のあり方における自然環境保護意識の向上を図るため開催している。</p> 	令和4年		
	5月 3日	ゴールデンウィーク特別企画「ネイチャーゲームであそぼう」	22名
	5月 4日	ゴールデンウィーク特別企画「自然観察会 見てみよう感じてみよう春の生態園」	28名
	8月 6日	夏休み特別企画「間伐材でつくろう木工時計」	28名
	9月18日	シルバーウィーク特別企画「ネイチャーゲームであそぼう」	23名
<p>③ 県民実験教室</p> <p>簡易な科学実験やリサイクル工作を通して環境保全意識の向上を図るため開催している。</p> 	令和4年		
	4月29日	ゴールデンウィーク特別企画「チリメンモンスターを観察、オリジナルチリメンストラップをつくろう」	53名
	5月 1日	ゴールデンウィーク特別企画「キツツキノッカー ゆらゆらコバトンをつくろう」	23名
	5月 5日	ゴールデンウィーク特別企画「模型で探る～宇宙への道」	45名
	7月17日	夏休み特別企画「にぼしの解剖でさぐる、動物のからだのつくり」	54名
	7月18日	夏休み特別企画「廃油からリサイクル石けんをつくってみよう」	30名
	7月22日	夏休み特別企画「体験！大気汚染を目で見よう」	30名
	7月24日	夏休み特別企画「自由研究ってオモシロイ」	40名
	7月29日	夏休み特別企画「体験！暑いサイタマから身を守る！－科学的な暑さの対策を一緒に学ぼう」	37名
	7月30日	夏休み特別企画「葉っぱで学ぶ木の不思議－葉っぱのスケッチから葉脈拓本づくり」	38名
	7月31日	夏休み特別企画「サイエンスショー 空気ってチカラもち!？」	69名
	8月 4日	夏休み特別企画「CESSゼロ係～自由研究なんでも相談室」	2名
	8月 5日	夏休み特別企画「土壌の性質を学ぼう」	46名
	8月11日	夏休み特別企画「かんたん・ふしぎな万華鏡をつくろう」	50名
9月25日	シルバーウィーク特別企画「草木染～オリジナルマスクを作ってみよう」	22名	

講座名	開催日	テーマ等	参加者
	10月30日	リアル体験教室「環境を科学する博士になりたい」	68名
	11月14日	県民の日特別企画「サイエンスショー 電気の正体をさぐる」	136名
	11月14日	県民の日特別企画「葉脈拓本をつくってみよう」	27名
	11月14日	県民の日特別企画「お花メダルをつくってみよう」	161名
	令和5年 3月 9日	サイエンスショー「化学反応!!」	24名
	3月21日	県民実験教室「光と虫めがね～牛乳パックカメラで写真を撮ってみよう」	52名

(25講座、計1,161名)

2.3 身近な環境観察局ネットワーク

環境に関心がある県内の個人や団体に、簡易な環境調査法の学習・調査報告・情報交換の機会を設けることにより、環境保全活動の推進や観察局同士のネットワーク形成を図っている。

観察局数:108局(令和5年3月31日現在)。

身近な環境観察局では、光化学オキシダントのアサガオへの被害状況と特定外来害虫であるクビアカツヤカミキリの調査を行っている。令和4年度はゴールデンウィーク特別企画の中に組み入れ、「GW特別プロジェクト CESSの調査に参加しませんか?」の企画として、説明会と活動成果発表会を実施した。

2.4 研究施設公開

ゴールデンウィーク、夏休み、県民の日に研究施設の一般公開を行った。

開催日	内容	参加者
5月 7日	普段非公開の研究施設を特別に公開し、研究員が解説や実演を行った。	82名
8月 2日		126名
11月14日		365名

2.5 その他(再掲を含む)

ゴールデンウィーク、夏休み、シルバーウィーク、県民の日に各種イベントを実施した。

イベント名	開催日	内容	備考
ゴールデンウィーク特別企画	4月29日 ～ 5月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所公開 ・チリメンモンスターを観察、オリジナルチリメンストラップをつくろう ・キツツキノッカー ゆらゆらコバトンをつくろう ・ネイチャーゲームであそぼう ・自然観察会 見てみよう感じてみよう春の生態園 ・模型で探る～宇宙への道 ・ミニ上映会 ほか 	参加者延 1,275名

イベント名	開催日	内容	備考
夏休み特別企画	7月16日 ～ 8月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所公開 ・にぼしの解剖でさぐる、動物のからだのつくり ・廃油からリサイクル石けんをつくろう ・体験！大気汚染を目で見てみよう ・間伐材でつくろう木工時計 ・ミニ上映会 ほか 	参加者延 3,413名
シルバーウィーク特別企画	9月17日 ～ 9月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイチャーゲームで遊ぼう ・草木染～オリジナルマスクを作ってみよう ・ミニ上映会 ほか 	参加者延 811名
県民の日特別企画	11月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所公開 ・サイエンスショー「電気の正体をさぐる」 ・葉脈拓本をつくってみよう ・ミニ上映会 ほか 	参加者延 1,155名

(計6,654名)